2018年6月号

新和田町
濵中　優子（ゆうこ）さんの巻
長女　心（こころ）ちゃん（５歳）

　月日の流れは早いもので、我が家の一人娘「心」も今年で６歳になります。元気いっぱいの産声で小さな手足を動かす娘の姿、抱っこした時に感じた命の温もりを、つい最近のことのように感じます。小さい頃は寝くずりがひどく、日中も夜も抱っこ、抱っこで大変だった記憶があります。また、環境の変化に敏感だった娘は、人見知りもひどく、どこへ行っても私から離れずべったりでした。いつになったら私から離れて友達と遊べるのかな？と悩んだこともありましたが、いつか絶対にお母さんから離れる日が来るんだから、今いっぱい甘えさせてあげればいいんだよと言ってくれた友人の言葉で気持ちが軽くなり、肩の力を抜いて娘と関わることができるようになった気がします。大変だった中にも、ハイハイやおしゃべり、少しずつできることが増えるたびに家族で喜び合いました。
　甘えん坊の娘でしたが、幼稚園入園をきっかけにたくさんの友達ができ、親の心配をよそに活発に外を走り回る、少しおてんばな女の子に成長しています。あんなに私にべったりだったのに、公園で友達と遊ぶ姿が嬉しいような、ちょっぴり寂しいような複雑な気持ちです。
　主人も私も八幡浜生まれの八幡浜育ち。近くに両親がいてくれることは本当に心強く、有難いです。子育ては大変だと思うことが多いですが、娘のおかげでたくさんの人と出会うことができ、家族や友達、周囲の人に支えてもらっていることを実感することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。娘にも感謝の気持ちを忘れず、名前のように優しく、強く、思いやりのある心を持った大人になってほしいと願っています。これから成長と共に色々な壁にぶつかることがあると思いますが、そんな時は私達の両親がしてくれたように、温かく見守り、そっと背中を押してあげられたらと思っています。
　心ちゃん、お父さん、お母さんを選んでくれてありがとう。